

# 図画工作科カリキュラムの考察

岡田 匡史 ・ 静屋 智

A Study on the Curriculum of Zuga-Kōsaku Education at Elementary School

Masashi OKADA and Satoru SHIZUYA

キーワード：図画工作科カリキュラム、カリキュラム構造、新小学校学習指導要領（平成元年度版）、基礎基本、造形的な創造活動の基礎的な能力、基柱、運動体、自由な学習活動、基盤、低学年の学習活動様態、レディネス、題材、題材計画、材料体験、つくる活動

## I 序

新小学校学習指導要領（平成元年度版）には「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な創造活動の基礎的な能力を育てるとともに表現の喜びを味わわせ、豊かな情操を養う」という図画工作科の教育目標が掲げられている。図画工作科の教育活動はこの目標の文言に集約されている。

図画工作科では様々な題材を通して児童に数多くの造形体験をさせ、色々な創造過程の中で多くの表現材料と出会わせ、造形感覚・造形的思考・手指の巧緻性・造形的諸技能・情操等を養い育てることを目標としている。また、そのような表現活動が豊かな審美眼・批評眼・歴史的視野を育てる鑑賞活動としっかりと合一し、両者色々な形で高めあい発展しあうことを目標としている。そこで、教師はそうした目標を十全に達成するために、題材の内容・構造をよく考察し、諸題材をどう配列するかの周密な題材計画を構想する必要がある。

本論では表現の領域、中でも材料体験とつくる活動に論点を絞り、題材の内容・構造／題材の計画的配列（授業計画）／図画工作科カリキュラムの基本構造等について重点的に考察を展開する。そして、その考察と関連が深い諸題材を具体的に提示し題材の内容・構成・計画等について検討する。日頃の教育研究活動の中で私達が機会あるごとに率直に積極的に地道に話し合い理解を深めてきた様々な内容が本論には集められている。

論文の全体構成は上記諸点に関する理論的考察と授業実践に基づく題材研究の2つに大きく分けられる。前半部Ⅰ～Ⅴ（理論的考察）を岡田が担当し、後半部Ⅵ（題材研究）を静屋が担当した。

## II 本論のねらい

図画工作科では学習指導要領が示すA表現という大きな括りの中に、分量のバランス・相互連携がよく考慮され練られた上で、造形遊び（低・中学年を対象）／絵画（版画を含む）／彫刻／デザイン／工作という5つの主領域が設けられている。さらに共同製作や複合的・総合的造形活動が5領域を補足するように効果的に位置づけられる。こうした題材構成によって児童に多様な造形活動を体験させ

ようとしている。

しかし、図画工作科の題材は広範囲にわたり、その数・種類は非常に多く、加えて新たな題材が年々数多く開発され教育誌等で発表されているため、教師がそれら諸々の題材を網羅しようとして授業計画を立てるとどうしても量の面で無理・破綻が生じる結果になる。また、質の面でも問題が起きる。題材が羅列されて各題材の系統的関連が稀薄となり結果として総花型カリキュラムに陥ってしまうのである。

図画工作科カリキュラムの問題点は題材配列の総花性にある。児童が色々な題材を経験しても、そこで得た知識・技能や全体の学習内容がうまく連携せずばばらな状態のまま放置されることが多い。図画工作科の学習内容は実に豊富である。だが反面、児童が学習内容を系統的に結びつけて蓄積していけるような題材計画を立てることは容易ではない。そこで、本論において私達は、表現主題／材料・用具の知識／技法的側面に関する知識／表現技能／制作態度／全体の学習活動経験等が緊密に連携しあい大きくまとまって造形表現の有益な知識群が構成できるような図画工作科カリキュラムを、粗雑な構図の下ではあるが考察しようと考えている。

### III 図画工作科カリキュラムの基本構造

本章では技能学習を中心に、図画工作科の基礎基本的な内容の指導及びそれと同時に展開すべきである児童の自由で多様な学習活動との関係について図解的に考察してみようと思う。

新学習指導要領には「造形的な創造活動の基礎的な能力」という表記があるが、これは技能面／理解面／態度面に関する図画工作科の基礎基本的な内容を意味するものである。特に本論と最も関連が深い技能面に関して言えば、手指の巧緻性の計画的伸長や、制作に必要な諸種の基本的技術・技法を児童に系統的に習得させること等が基礎基本的な内容の指導ということになる。

ところで、児童の学習体験を増やそうとただ色々な題材を用意してみても、教育活動は軌道に乗らず展開できない。そこで、図画工作科の場合には造形表現の基礎的能力の育成という全学年を貫く太い幹に、多種多様な学習内容が絡みつき密着し勢いよく成長していくそのようなカリキュラム構造のモデルを考えるべきである。要するに太い不動的な基柱と、その周りをつねに流動的に運動・発展し多方向に増殖・拡張していく学習要素＝運動体が1つになった、そのようなカリキュラム構造を考えるべきなのである。そこで、このモデルを基に技能学習について考えてみたい。

前記した基礎的技能は造形活動の土台・大前提であるから、或題材を設定する際に、教師は児童に必要な基礎的技能を習得させるべく適切な指導を実施する必要がある。これによって児童には基礎的技能が確実に身につしていかなければならない。さらにより高度で応用的な題材を設定する計画がある場合に、教師は児童に数種の技能を計画的に学習させる。このとき児童が習得した個々の技能は相互に多角的・立体的に関係づけられ、技能に関する統一的で豊かな知識構造が形成されていかなければならない。これがカリキュラム構造の基柱の部分である。

次に運動体としての学習要素を考えよう。技能については計画的学習ばかりでなく、個性的表現を追求する創造過程での思いがけない技法の発見を契機に、また、手当たり次第の行動・無計画な試行

錯誤によっても多く身につくものである。これは体験学習の考え方であるが、教師は児童の発見・自己探求活動・試行錯誤を厳密に計画することは無論できない。そこで、教師は計画的技能学習の道をしっかりと敷いた上で、児童がオリジナルな技能を身につけそれを様々な形態に発展させられるような自由活動領域をいつでもセットしておくことが重要になる。ここで児童は自由に発想・構想し、どんな造形活動を展開しても基本的には許されるのである。そうした自由活動を通じて児童が得た諸技能が基礎的技能となりカリキュラム構造の基柱を太らせるということは十分考えられる。技能学習はこのような2種の対照的な学習形態がよく機能しあい合一することが最善である。この考え方は図画工作科教育全般に当てはまるものである。

#### IV 新学習指導要領の観点

図画工作科カリキュラムを構想する際に、これまではどうしても題材の検討、特に材料・用具／技法／制作方法／制作工程等の面の検討にウェイトが置かれがちであったと思う。新学習指導要領ではこの点が抜本的に改善され、題材を通して児童がなにを感じ考え知り経験・学習・獲得するかという児童の側の活動様態の質を重視する視点が強調されている。そこで、重要になってくるのが前章で述べた児童の自由活動の展開である。

新学習指導要領では主に材料体験とつくる活動に関してこのことが述べられている。以下は新学習指導要領に記された第1学年及び第2学年の目標である。

(1) 材料をもとにした造形活動の楽しさを味わい、材料から豊かな発想をして、進んで造形活動ができるようにする。

(2) 表したいこと、つくりたいものを自分の表現製作の方法でつくりだす喜びを味わうようにする。

(1) では材料との出会い・材料の諸性質を知る学習体験が種々な発想・表現を生みだす源泉となり、材料を契機に児童の造形活動が活発化し自由に発展することの重要性について簡潔に述べられている。材料をめぐるこうした自由活動は教師の計画的指導を越えた地平で展開するものであるが、この領域を教師が題材の中に巧妙に仕組み設定することによって児童の十全な題材学習を達成するというより大きな意味での指導計画が実は必要なのである。

(2) では児童がオリジナルな表現技術・製作方法を自由に伸び伸びと発想・考案して中味の濃い造形活動を実践することの意義が簡潔に述べられている。「自分の表現製作の方法」を児童が見出すこともまた教師が事前には計画しがたい要素である。しかし、それを可能にするような場作りこそ教師の広義の指導計画の課題となる。

(1)、(2)の理念を最もよく体現する領域は言うまでもなく造形遊び及び工作である。材料体験とつくる活動の重視は新学習指導要領が明確に打出したポイントであることを補足しておきたい。

ところで、両目標は低学年の指導の典型的な在り方を示すものである。両目標の背後には低学年の造形活動が図画工作科教育全体の基礎基本であるという考え方がある。つまり材料体験からの造形活動の流動的で変化に富む多方向への発展やオリジナルな考え方によるつくる活動の自由な展開の中で、造形表現の基礎基本の事項が自ずと養われることが強く期待されているのである。低学年時の題

材学習は前章で述べたカリキュラム構造が建つ厚い岩盤を意味し、基柱も運動体的な学習要素もこの基盤から直接成長していっていると考えられる。要するに、図画工作科全体を概観すると、低学年の学習活動様態は概して流動的・運動的・未分化であり、そうした内容が学年が上がるにつれて徐々に特徴ある形態へと移行・発展していくという構造が理解できるのである。前章で提示したカリキュラム構造モデルはこうした考え方に基づいて修正・補足されるべきである。

とは言え、根幹の目標である造形表現の基礎的能力の育成を達成するための指導計画を、教師は低学年でも丁寧に構想すべきである。この作業を蔑ろにしている理由はなにも見出せない。材料の基本的な取扱ひ方・加工法や用具・道具類の基本的な操作・使用法に関しては安全面も含めて教師は児童に的確に説明しよく理解させるべきである。こうした指導が頑丈な幹となって思考・想像・制作にわたった児童の自由な体験学習が意味を持つてくるのである。

## V レディネスの重要性と題材計画

これまで図画工作科カリキュラムの全体像について検討・考察してきたわけだが、本章では題材計画という実践的な側面から図画工作科カリキュラムの言わば背骨に当たる部分の特徴を概観する。多様な題材をどう連携・接続し配列して強固な図画工作科カリキュラムを編成するかという点について重点的に述べることになるが、その際非常に重要になってくる概念がレディネスである。

レディネスとは現在直面している題材の諸課題を克服・解決し諸目標をより高いレベルで達成するのに必要な備え／基盤／先行体験／すでに蓄積された或種の有益な実践的知識・技能のまとめり・構造のことである。レディネスは問題解決のための様々なヒント・予測の観点を学習者に提供し学習活動を容易にする。レディネスは計画的な学習活動にとって不可欠なものである。

このレディネスを基に題材を検討し題材配列を考えることは指導計画の基本である。そこで、まず題材の内容・構造について考えよう。或題材がなんとはなし多様な要素でできていると教師が感じているとする。しかし、教師が詳しい題材研究をせずに、題材内容が雑然とし曖昧な状態のまま児童にこれを提示してしまったならば、恐らくその学習には混乱が生じ、学習内容のトータルで明晰な理解が難しくなるであろう。そこで、教師は初めにその題材に必要なレディネスを検討すべきである。次にその題材が他の種々な題材との多様な関係の中で一体どれくらいの種類・量のレディネスを持つかを分析しなくてはならない。1個の題材がもし複数のレディネスを持つとすれば、その題材は多くの題材に多様なレディネスを提供できるはずである。また、単一のレディネスしか持たないとしても、それが多くの題材に共通のレディネスとなる可能性がある。教師は列挙した様々なレディネスを相互に色々な方法で関連づけ適切な大きさの群にまとめたりしながら、題材の中身を指導の全体計画に基づいて周到に計画し構造化すべきである。その題材はそれ自体で完結してしまうというような性格のものではなく、指導計画全体の中で他の諸題材と色々な連携できる可能性を持ったものである必要がある。

次に題材計画について簡単に述べよう。1個の題材に複数のレディネスが存在するという事は、その題材が特徴ある色々な出力点を備えているということの意味する。この出力点と他の多種多様な



題材の様々な入力点とが繋がりがあって、題材間には複雑な網の目様の関係が形成される。この関係を整備し効果的な題材連結の仕方を考える作業が題材計画である。

題材計画とはレディネスの筋・動き・流れ・展開を緻密に計画して題材を連結していく作業である。レディネスを連結機構として題材を相互にしっかりと食込むように連結し、教育活動を行なうにあたって適切な題材配列を構想するのである。題材計画がきちんとできていれば、いくつもの題材を学習する過程で多くのレディネスが児童の中に系統的に確固として根付き、その1群のレディネスを用いて次に展開される題材を効果的に始めることが可能となる。個々の題材が断片的・羅列的に記憶に残っているだけのような学習結果ではこういう展開は望めない。題材計画が成功したとき、教師は児童に現在行なっている題材もしくはこれまでに行なってきた一連の題材群の或まとまった明確なピクチャアを与えることができる。延いては図画工作科全体の内容・構造に関する明瞭なピクチャアを教師は児童に与えることができる。

最後にレディネスはいつも柔軟な成長過程にある点についても述べておきたい。レディネスが次に続く題材学習に効果的に生かされうるような道筋・計画を考えることによって過去に獲得したレディネスが成長できる。レディネスは繰返し活用されたり他のレディネスと色々な繋がったりしながら多面的に成長し厚みを増し規模を拡大し豊かになっていく。そうして、レディネスは最終的には幅広く十全な先行学習体験を形作る。レディネスの充実によって児童の造形的発想は拡大し、表現方法のための数多くの選択肢が形成され、実に幅広い内容を持ったダイナミックな造形活動が自身の力で展開できるようになる。こうしたことが題材計画が必要だという根拠なのである。

以上の考察よりレディネスの性質及び題材計画に関する図画工作科カリキュラム構造のモデルがおおよそ理解できたかと思われる。図画工作科カリキュラムはそれ1個で完結してしまうような題材の団子状・分断型・足算方式の配列ではない。それはレディネスによって複雑な接続の軌跡を描きつつも各題材が密接に関係づけられ連結され系統づけられた、そのような型の題材配列・構造を有するものである。

また、各題材を組織するレディネスの地道な積上げによって造形表現の確固たる基柱が形作られるわけだが、この基柱はIII章で考察したカリキュラム構造の基柱を実は厚く肉づけしたものだと考えていい。造形表現の基礎的技能の伸長ということがレディネスの充実・増強によって自ずと実現されてくるのである。このレディネスに関する基本構造をきちんと押さえさえすれば予測困難な様々な学習要素を題材計画の中に仕組んでも基本的に支障はない。むしろ児童はオリジナルな観点で自由に活動することによって多くの事柄を学習し、興味深い多様な学習展開が教室のあちこちで頻繁に生起するはずである。

## VI 題材及び題材構成の考察

明確なカリキュラム構造を構築することが最も大事なことである。しかし、その結果、学習活動の微妙で柔軟で有機的な面が排除され固定的構造に陥ってしまてはいけぬ。図画工作科カリキュラムを生き生きとし内容豊かで充実したものにするためには、III章で述べたような児童の自発的活動が

自在に展開できる領域を効果的に設定する必要がある。

題材は児童の未知の活動展開を許容できる流動的・総合的なものの方が造形的思考・制作活動が活性化しかえって健全である場合もある。そこで、諸要素が色々に関係しあって造形体験を様々な形で展開・発展させる潜在力を有する表現領域が注目されてくる。この観点からすれば扱う材料の数・種類の多さと活動様態・表現過程の多様さが特徴である例えば造形遊びや工作が一層重視されることになる。そして、この観点は材料体験とつくる活動の重視を謳う新学習指導要領の主旨と適合するものである。これらに対して絵画・彫刻の題材内容は比較的単調である。そこで、絵画表現であれば材料体験と構成にウェートを置いてコラージュ／アッサンプラージュ等の新技法を導入したり、音・音楽の領域にまで絵画表現を拡張して複合型題材を開発したりすること等が、また、彫刻表現であれば色々な身近材・廃品等を活用できる自由な抽象的・構成的作品を題材化すること等が重要な試みとして評価できると思われる。

それでは、最後にこれまでの考察を踏まえ、日頃の教育実践を通じて模索し磨き整えてきた6つの特徴的な題材・学習指導案（資料1～6参照）を提示し、題材構成・図画工作科カリキュラム（資料7参照）について考察したいと思う。

## 第2学年 図画工作 科学習指導案

2年2組 指導者 静屋 智

子ども一人一人が空想の島を豊かにイメージし、自分の想に合った形や大きさをつくりながら見つけ、粘土で共同製作する喜びを味わうには、どのような援助をすればよいか。

低学年の塑像表現の指導においては、粘土に親しみながら手を十分に働かせて表現する中で、自分や友の形や大きさについての工夫のよさや感じ方のよさを実感としてとらえさせることが大切である。ここでは、個のつくりやすさやイメージを、自己内対話しながら手で形を変化させていくことではっきりした想を持つ過程を重視し、個の発想のよさを共同製作を通してより豊かなものにする中で、共につくる楽しさ・喜びを味わわせようとするものである。

そのためには、空想の島をつくる中で、個の発想や表現方法の多様性が保障されること、粘土に十分触れることができ、個の願いが生かされる場が保障されること、個やグループの願いに基づいたイメージが具現化され進歩の度合いが明かになっていく喜びを味わえること等の視点から、援助する必要があると考えた。

具体的には〈個やグループの発想・表現を振り返らせる〉ことによって空想の豊かさや協力してつくる大切さを考えさせたり、〈自分の必要な粘土を好きなだけ使わせ〉たり、〈島の中に自分のエリアをつくらせたり〉たりして個の発想を広げ体全体で表現する楽しさを味わわせる。また、〈友だちの工夫のすばらしさを広めたり、願いがかなう島がつくれたかはなしあわせ〉たりしてできばえを振り返ることができるような援助をすることによって課題の解明を図りたい。

題 材 お話ねん土「こんな島があったらいいな」

### 1. 目 標

- 粘土に親しみ、創作したお話に基づいた空想の島を楽しく表現させる。
- グループで島のつくり方や飾り方を話し合いながら、協力して楽しく共同製作をする態度を育てる。

### 2. 指導計画

児童のレディネス お話づくりなど空想することに興味をもっており、それを文や絵、立体に表現したいという強い願いをもっている。大量の粘土で表現したことは少ないが、見通しを持たせたり時間を保障したりすることによって全身で表現できると考える。お互いのよさを認め合う活動や自分のイメージが発揮できる場を仕組みと、共同製作においても個の持ち味を生かしながらてくれるようになってきている。		
内 容	活 動	個 性 伸 長 の 構 え
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     粘土で立体表現すること 空想の島のお話づくり                 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">                         お話に基づいた共同製作の見通し                     </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">                         粘土の材質・特性 粘土の基本的な表現方法                     </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     鑑賞会 ・お話の伝達性からみ見た効果 できばえ ・共同製作の大切さ                 </div>	グループづくりをし、空想の島をつくる計画を立てる (1)  グループで大量の粘土を使い島をつくり分担して個人製作をする。 (3) 本時分  効果やできばえをふり返りながら鑑賞会を行い、記念撮影をする。 (1)	○大量の粘土を使って4人グループの共同製作をする中で、自分のエリアをイメージ豊に作りだすことにより活発で楽しい学習が期待できる。その中で、新しいものや人との関わり方を通して、新たな見方や考え方ができるようになった自分や、協力したり最後までやり通したりする大切さを感じ取らせたい。  ○つぶやきや表情・粘土への関わり方をとらえて助言や対話、価値づけをくり返し、美しさやよさを実感させ、もっと工夫してみたいという意欲を高める。できばえや取り組み方をふり返る自己評価をさせたり、鑑賞会でお互いの考えや想いを表現させたりしながら、つくりながらわかること、共同製作の楽しさを味わわせる。
発 展 「こんな町に住んでみたい」 (3年)		

## 第2学年 図画工作 科学習指導案

2年2組 指導者 静屋 智

**研究課題** 子ども一人一人が表したい楽しそうな動きを探りながら見つけ、布の持つ特性を生かしながら切り絵を構成していく楽しさを味わうには、どのような援助をすればよいか。

低学年では素材や用具との関わりを広げながら、自分の思いにしたがって手を働かせてつくることそのものを楽しむことが大切である。ここでは、布という児童にとっては造形活動の中であまり体験のない素材に出会わせることによって、布独特の素材感や素材としての可能性を体験を通して感じさせることが大切であると考えられる。また、2年生の時期に体全体から伝わってくる動きのある表現を、試行錯誤して探らせたり、体の部分に合う布を質感や色の違いから選択させたりすることにより、デザインの能力を高めるための案地や切る貼るといった造形的な基礎技能をつくる楽しさとともに養えるものだと考える。

そのためには、楽しくダンスをしている様子を表す中で、布の特性を生かすこと、工夫して構成する見通しが持てること、自分の表現への取り組み方が確かめられつくり上げていく喜びを味わえること等の視点から、援助する必要があると考えた。

具体的には〈何種類かの布を用意し〉、〈動作化を取り入れたり、雰囲気づくりをしたりする〉ことを通して個の発想を広げたい。また、〈視覚的にとらえやす提示や問いかけをし〉たり〈作る時間を十分与え〉たりすることによって個の想を追求させるとともにつくる楽しさを味わわせ、〈自由性のある取材活動の場面を設け、友や自分のよさやできばえを振り返らせ〉喜びのよさを実感できるような援助をすることによって課題の解明を図りたい。

**題 材** 楽しいダンス ——布を使って——

1. 目 標

- 体を動かしている姿を造形的に工夫して、楽しくダンスをしているようすを表すことができるようにする。
- 布の持つ特性を生かしたり、鑑賞を通して自他のよさを認め合ったりしながらつくる楽しさを味わうことができるようにする。

2. 指導計画 (4時間)

児童のレディネス 動きのある表現の表し方については概念的なものもあるが、工夫する視点を投げかけることによって表現は変わってくると考える。布を材料にしたことは少ないが、見通しをもたせたりつくる時間を保障したりすることによって、自分なりの追求の仕方が身についてくると思われる。フリーの取材活動や鑑賞会では、よさを認め合い高め合おうとする態度が見られるようになってきた。		
内 容	活 動	個 性 伸 長 の 構 え
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     布の種類による感じのちがいがい 楽しさを表す形                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     想を生かす用具の使い方の工夫 楽しさを表す構成の工夫 各部分の大きさや位置 色や材質感のちがいによる布の生かし方                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     鑑賞会 ・自分の想から見た効果・できばえ ・構成・切り方貼り方のよさ                 </div>	さまざまな布の質感を確かめ、ダンスをして楽しい形を見つめる。 <span style="float: right;">(1)</span>  布を使って紙の上にならべ、楽しいダンスになるように構成する。 <span style="float: right;">(2)</span> 本時 2/2  効果やできばえをふり振り返りながら鑑賞会をする。 <span style="float: right;">(1)</span>	○身近な材料の1つである布を使うことによって、布独特の素材感や素材としての可能性を自分の手の感覚を通して体験させる。その中で、自分の想を作り上げながら深めていった自信や、新しいものや友達との関わりを通して、布の特性や構成をじっくり考えていけるいけるようになった自分を感じ取らせたい。  ○つぶやきや表情・布への関わり方をとらえて誘い出しや問いかけ、価値づけをくり返し、美しさやよさを実感させ、もっと工夫してみたいという意欲を高める。できばえや取り組み方をふり返る自己評価をさせたり、鑑賞会でお互いの考えや想いを表現させたり、自分の試行錯誤の結果としての表現を過程とともに振り返らせたりしながらつくりながらわかる喜びを実感できるようにする。
発 展 「ふたりでしたこと」 (2年)		

## 第5学年 図画工作 科学習指導案

5年2組 指導者 静屋 智

**研究課題** 子ども自らが空を自由に飛びたいという願いから多様に想をふくらませ、既存の力を十分発揮できる独自の方法で、全体と部分の関係をとらえながら針金で芯組みをする喜びを味わわせるためには、どのような援助をすればよいか。

5年生の粘土による心象表現で芯組みをする学習において独自の表現を追究するためには、一人一人がえがいている想を広げ形の動きや量感をつくる中で感得させることによって、個のよさを発揮し全体と部分を見比べながら想を焦点化していくことが大切である。したがって芯組みでは適度な抵抗を感じ自分らしさを発揮しながら主題を追究し対象を量として感じ取り多方面から見直すことによって、生き生きとした豊かな表現にすることが重要である。

そのためには、鳥等につかまったりして飛ぶ表現の中で、形や表現技法や全体と部分のとらえ方に多様な見方・考え方が生かせること、その中から自由な選択や組み合わせができ易いこと、自分の願いに基づくイメージが具現化された進歩の度合いが明かになっていく喜びを味わえること等の視点から援助をしていくことが必要であると考えた。

具体的には「願いをふり返り提示物から新たなイメージをわき起こさせること」によって個性的なとらえ方を追究させ、独自の表現を工夫することができるように「芯となる材料の種類を増やし」たり「自由性のある材料収集の場面を設定し」たり、自分の工夫の高まりを認識し新たな見直しを持つために「友の製作の過程や結果からよさを取材させ」自分の表現のよさをふり返ることができるような援助をすることによって、課題の解明を図りたい。

**題材** 大空にはばたこう（形塑）

**1. 目標**

- はばたくイメージをバランス・形を把握しながら力動感や空間感を工夫して粘土で立体的に表現できるようにする。
- 自分らしさや友のよさを鑑賞する中で互いに認め合い高め合いながら、表現を通して創造する喜びを味わうことができるようにする。

**2. 指導計画（7時間）**

児童のレディネス 全体を一つのかたまりとしてとらえ、部分と見比べながら大まかなとらえ方をする力はついてきている。また、想を文章化させたりその場面に応じた資料等を提示すると自分のひらめきやアイデアを大切に、他からの刺激と自分の表現を比較し全体のバランスを考えながら、見直しをもって活動しようとする態度が見られるようになってきている。つくりたい想が明らかになれば自分から方法を工夫して主題を追究している。提示の方法・材料の選択を工夫したり、個の想・技能・意欲に応じた助言をしていけば、多様な見方・考え方を想を広げ自分らしさ表現できるようになるのではないかと考える。											
基礎的・基本的事項	活動	独創力育成の視点									
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">創作物語の主題の独自性</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">針金による骨組み ベンチの基本的技能</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">全体のバランス 形・大きさ</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">粘土による立体表現可塑性</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">大まかなとらえ方 空間構成</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">量感・力動感の効果的な表し方</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">表現全体から受ける印象</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">主題をふまえた表現効果・工夫</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">粘土でつくることの楽しさ・喜び</td> </tr> </table>	創作物語の主題の独自性	針金による骨組み ベンチの基本的技能	全体のバランス 形・大きさ	粘土による立体表現可塑性	大まかなとらえ方 空間構成	量感・力動感の効果的な表し方	表現全体から受ける印象	主題をふまえた表現効果・工夫	粘土でつくることの楽しさ・喜び	<p>主題を決め、製作の計画を立て芯組みをする。 (3) 本時<sup>2</sup>/5。</p> <p>想をふり返りながら、粘土で工夫して表現する。 (2)</p> <p>全体と部分の関係を見直し、鑑賞し合う。 (2)</p>	<p>○大空を鳥や昆虫に乗ってはばたくという創作物語をつくらせることによってイメージをふくらませ、芯材の特徴を生かしたり針金を曲げたりつけたり修正したりしながら自分の想に基づいて、つくろうとする意欲をわきおこすことができるようにする。</p> <p>○自分の計画にそって粘土をつけ、素材の持つ特性を生かしたり芯組みを修正したりしながら量感・力動感を 願いに基づき主題に迫るように工夫して 表現できるようにする。</p> <p>○自分のつくりだした表現を全体から受ける効果を考え修正したり、鑑賞会でお互いを高め合ったりしながら、粘土でつくる喜びを味わえるようにする。</p>
創作物語の主題の独自性	針金による骨組み ベンチの基本的技能	全体のバランス 形・大きさ									
粘土による立体表現可塑性	大まかなとらえ方 空間構成	量感・力動感の効果的な表し方									
表現全体から受ける印象	主題をふまえた表現効果・工夫	粘土でつくることの楽しさ・喜び									
発展 「わたしと誰かと（人の複合体）」 (6年)											

## 第 6 学 年 図 画 工 作 科 学 習 指 導 案

6 年 2 組 指 導 者 静 屋 智

題 材 プライベート・タイムカプセル（塑造・デザインしてつくる）

### 1. 目 標

- 塑造づくりを通して立体的造形力を養うとともに、機能・構造・装飾を総合的に考え合わせてデザインしてつくることができるようにする。
- 自分らしさや友のよさを鑑賞する中で互いに認め合い高め合いながら、表現を通して創造する喜びを味わうことができるようにする。

### 2. 指導計画（12時間）

児童のレディネス 児童はこれまで針金を中心とした芯組みによる塑造表現を5年生の時に経験している。そこでは針金という素材が比較的容易に形を変えることができるという利点をうまく使って、自分の想を（手）——（目）——（頭）で付加修正しながら表現する力をつけてきている。いろいろな材料をもとにつくることによって基本的な用具の扱い方も体験している。また、製作の計画を絵や文で表しておくことによって、表現の見通しをもちながら自分のひらめきやアイデアを大切に、他からの刺激を自分の表現と比較しながら意欲的に活動しようとする態度がみられるようになってきている。題材提示の仕方、学習過程を工夫していくと、多様な見方・考え方から生まれた独自の考えをもとに問題開発、問題解決を図るようになり、想を広げ自分らしさを表現しようとしている。

基 礎 的 ・ 基 本 的 事 項	活 動	素 地 的 能 力 育 成 の 視 点
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">表現したい乗る物を想像すること見通しを持った構想</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">身近にある材料による芯づくり接合方法</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">全体の大きさ材料の特徴を生かすこと</div> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     つくりたいものを決め、製作の計画を立て芯づくりをする。                      (4)                      本時<sup>4</sup>/<sub>5</sub> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○乗ってみたい乗り物を想像し、身近にある材料で芯づくりをすることを通して、自分のタイムカプセルをつくりたいという強い願いを持つことができるようにする。身近にある材料と自分の想とを機能的・造形的な面から考え合わせたり、芯づくりで自分の想との比較をしながら試行錯誤したりすることによって、見通しのある構想を練ることができるようにする。</li> </ul>
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">粘土による立体表現可塑性</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">芯づくりの構成を生かすこと</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">量感の表し方形の調和</div> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     想をふり返りながら、粘土を中心に工夫して塑造表現をする。                      (3)                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○材料の持つ特徴や、構成された芯の形や量感を想に照らし合わせ、足りないところ・修正すべきところ・工夫したいところを見つけたり、それを今までの経験やまわりの刺激、自分なりに考えたことをもとに塑造表現したりすることによって工夫して表現できるようにする。</li> </ul>
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">飾る工夫想にあった着色</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">構想をふりかえった表現効果</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">鑑賞の視点作品の美しさ・工夫点</div> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     想に合った着色をし、鑑賞し合う。                      (4)                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○粘土による塑造表現を見直し、初発の想に、全体の形や量から受ける印象・新たな発想を付加しながら着色する。鑑賞会ではお互いの作品の美しさ・工夫点を認め合い高め合うことを通して、自分の製作ぶり（技能・態度・思考）を振りかえるとともに、つくる喜びが味わえるようにする。</li> </ul>

## 第 6 学 年 図 画 工 作 科 学 習 指 導 案

6 年 2 組 指 導 者 静 屋 智

**研究課題**

子ども自らが宇宙都市のイメージをふくらませ、共同製作をする中で新たな見方・感じ取り方を楽しみながら、独自で確かな紙工作をする喜びを味わうためには、どのような援助をすればよいか。

高学年の飾るものをつくる学習においては、生活を楽しく豊かにするために用途・目的・美しさを考えながら、それを表現に生かすことが大切である。ここでは固有のイメージをぶつけ合ったグループの宇宙都市に関わるお話づくりを基に、個の発想のよさをお互いに認め批評し合いながら、共同製作を通してより高まりのあるものへと構想させたり、紙工作をする中で自分や友のよさに触れて生まれる新たな自分を感じ取ったりしながら共に創造する喜び・楽しさを味わわせようとするものである。

そのためには、宇宙都市を共同製作する中でグループ構想としての想が共有化されること、個の願いがどの程度集団の中に生かされているか分かり新たなめあてが生まれること、共有化された想が具現化され進歩の度合いが明らかになっていく喜びを味わえること等の視点から援助していく必要があると考えた。

具体的にはく個や共有化された想をより高まりのあるものへ構想させることによって見通しのある構想の必要感を湧き起こさせ、く自分たちの構想が表現を通して追求できる材料を保障することによって表現の統一感・独自性を両面から探らせる。また、自分やグループの工夫の高まりを認識し新たな見通しを持つためにく友の製作の過程や結果からよさを取材させたり、くグループ構想を基に製作が確かなものになっているか振り返る場面を設けたりして主体的に共同製作ができるような援助をすることによって課題の解明を図りたい。

**題 材** お話工作 —— わたしたちの宇宙 ——

**1. 目 標**

- 今まで経験した技術を生かし紙の持つ特性を考え合わせながら、宇宙都市を工夫して表現できるようにする。
- 構想・展示・鑑賞を通してお互いのよさを認め合い高め合いながら、協力して楽しく共同製作ができるようにする。

**2. 指導計画（8時間）**

児童のレディネス 夢や願いに基づいた想を文章化やアイデアスケッチで広げさせると、自分のアイデアを大げにし、表現に生かそうとする。素材の特性と技法等の複合した要素を持つ提示から多様に発想・構想し、自分の想・技能を高めながら見通しをもって追求できるようになってきている。共同製作はあまり経験していないが、友のよさを参考にしたり鑑賞活動を通してお互いを認め合うことができているので、個のイメージを確かなものにする援助があれば、それを集団の中に生かすことができると考える。		
内 容	活 動	個 性 伸 長 の 構 え
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">                     空間を構成する楽しさ 宇宙都市のお話作り                 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">                         宇宙都市等の構成 共同製作の構想と見通し                     </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">                         紙の持つ特性 ・軽さ・強さ ・表現効果 接着接合の方法                     </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                         展示の工夫 ・空間との調和・雰囲気 ・お話の伝達性からの効果 共同製作をする喜び・楽しさ                     </div>	グループでお話作りをし、宇宙都市の製作の計画を立てる。 (2)  分担を確認し構想を振り返りながら共同や個人での製作を進める。(4) 本時※  付加修正する部分を見つけ補正するとともに展示を工夫し鑑賞し合う。(2)	○お話づくりから宇宙都市のイメージをグループ内で検討し合わせたり、製作の計画を立てたり、見通しを持ったグループ構成の必要性を感じ取らせたりして共同製作をする意欲を高めながら、その中で、一人一人が参加する楽しさを味わわせたりする。  ○図工ノートやグループ構想図で、できばえや自分がどのように参加しようとしたか他との関わり方を振り返らせ、自分が新たな見方・感じ取り方ができるようになったということを発見する喜びや、共同製作で友と学び合うすばらしさを味わうことができるようにする。



## 第 6 学年 図画工作 科学習 指導案

6年2組 指導者 静屋 智

**研究課題** 子ども自らが用途や美しさを考えながら空間を飾りたいという願いを持ち、多様に想をふくらませながらモビールをつくる喜びを味わわせるには、どのような援助をすればよいか。

6年生の飾るものをデザインしてつくる学習においては、生活を楽しく豊かにするために、用途や美しさ、楽しさを考えながら、それを表現に生かすことが大切である。ここでは、空間を飾るという願いを基に、モビールの持つ軽さ・動き・方向性を持たない美しさを構成要素や材料の特性から総合的に考え合わせながら、計画的につくる中で試作したり、構想を練り直したりして自分に合った表現を追求していくことに重点をおきたい。

そのためには、空間にバランスを考えて構成する中で、つるすものや空間と動きのとらえ方に多様な見方・考え方が生かせること、その中から自由な選択や組み合わせができ易いこと、モビールに対する願いに基づく想が具現化され進歩の度合が見えてくる喜びを味わえること等の視点から援助していくことが必要であると考えた。

具体的には〈願いをふり返らせ失敗例の提示から新たなイメージをわき起こさせること〉によって空間構成の個性的なとらえ方を追求させ、〈腕の材料を増やし〉たり〈自由性のある情報収集の場面を設定し〉たりして独自の表現を探らせ、自分の工夫の高まりを認識し新たな見通しを持つために〈友の製作過程や結果からよさを取材させ〉自分のできばえをふり返ることができるような援助をすることによって、課題の解明を図りたい。

### 題 材 つくろう！オリジナルモビール

#### 1. 目 標

- 空間を飾るイメージを、バランスと動きの効果を考えながら立体的に工夫して表現できるようにする。
- 作品を鑑賞する中で、表現意図や特徴・その良さが分かるとともに、互いに高め合いながら創造する喜びを味わうことができるようにする。

#### 2. 指導計画 (100時間)

児童のレディネス 願いに基づいた想を文章化やアイデアスケッチで広げさせると、自分のひらめきやアイデアを大切にしながら表現できるようになってきた。また立体による表現を好み、複合した要素を持つ提示をすれば、材料や技法から多様な見方・考え方を広げ、個の想・技能に応じた追求の仕方で喜んで構成しようとする。見通しを持って計画的に表現しようとする態度も見られるようになってきている。

基礎的・基本的事項	活 動	独 創 力 育 成 の 視 点									
<table border="1"> <tr> <td>モビールの持つ特徴</td> <td>主題の独自性</td> <td>つるし方の多様性</td> </tr> <tr> <td>つるしたい物の構成</td> <td>軽さ・動き・空間を構成する美しさ</td> <td>物理的・バランスと視覚的・バランス</td> </tr> <tr> <td>表現全体から受ける印象</td> <td>主題をふまえた効果・工夫</td> <td>飾る場所・空間との調和</td> </tr> </table>	モビールの持つ特徴	主題の独自性	つるし方の多様性	つるしたい物の構成	軽さ・動き・空間を構成する美しさ	物理的・バランスと視覚的・バランス	表現全体から受ける印象	主題をふまえた効果・工夫	飾る場所・空間との調和	<p>主題を決め、製作の計画を立てる。(2)</p> <p>想をふり返りながら、工夫してモビールを構成する。(6) 本時 4/6</p> <p>全体と部分の関係を見直し、鑑賞し合う。(2)</p>	<p>○モビールの特徴をとらえ、主題からアイデアスケッチを通して想を広げる中で、つくろうとする意欲をわきおこすことができるようにする。</p> <p>○モビールの構成要素をふまえ、計画にそって素材の持つ特性を生かしたり修正したりしながら、バランスのおもしろさ・空間感を主題に迫るように工夫して表現できるようにする。</p> <p>○自分の表現を全体から見た効果から修正したり、鑑賞会でお互いを高め合ったりしながら空間を飾る楽しさ・喜びが味わえるようにする。</p>
モビールの持つ特徴	主題の独自性	つるし方の多様性									
つるしたい物の構成	軽さ・動き・空間を構成する美しさ	物理的・バランスと視覚的・バランス									
表現全体から受ける印象	主題をふまえた効果・工夫	飾る場所・空間との調和									
発 展	「室内を飾るものをつくる」	(中学1年)									

### (1) 図工科で育てたい子ども像

我々は子どもたちが表現に取り組む際、創造的で能動的な活動を展開してくれることを常に望んでいる。言い換えれば、子ども自身が創造力を豊かに働かせると同時に自己の表現に対して、「どうすればよいか」「もっとよい表し方はないか」「これはあの部分に生かせ使えそうだ」「ここをもっと工夫すれば自分のイメージに合ってくる」などと自分の内面に語りかけ問いかけたり積極的な試行錯誤を通したりして自己の表現を追求し、価値あるものにしていく姿を望んでいる。それをまとめると、以下のような子どもの姿になる。

- ◎下手でも自分のイメージを大切にし、それを実現するために、個性的にしかも想像的に対処しようとする子ども
- ◎自然や素材から豊かなイメージを看取り、それを表現活動に積極的に生かそうとする子ども
- ◎必要に応じて身につけた造形的能力を駆使しようとする子ども
- ◎表現することに喜びを感じ、意欲的に表現に関わろうとする子ども

↓

「より質の高い表現へと常に問い続けていく子ども」

このような子どもたちを育成していくためにも、教師が意図的・計画的に題材を構成し、授業を設計していく必要があると思われる。

### (2) たしかな自分を形成する授業の設計

#### (ア) 目指す授業像

子どもたちが主体的に表現に立ち向かうためには、まず、図工の授業が楽しいものでなくてはならない。それが、苦痛なものであったり、表現意欲を引き起こさないものであったなら、主体的な姿は見られない。そのためにも、従来の授業を問い直してみる必要がある。

従来の授業——教師の指導意図が明確で、到達点が決まっている授業——

目指していくべき授業——製作の主導権が子どもに委ねられ、子どもの発想が尊重される授業——

子どもたちが教師の指示に従って受動的に動く授業から、子ども自らが表現上の課題や問いを見つめて動き出すような授業へと変換していくことが、「たしかな自分」を形成するためには必要なのである。まとめれば、＜子どもの「想」を尊重し、子どもの可能性に期待する授業＞を構成していくことである。具体的には、次のような要素を備えた授業である。

- ◎目標が具体化され、子ども自身が「何をするのか」「何を求めたらよいか」が分かる授業
- ◎子どもの「想」が絶えず拡散し、次々に発展していくことができる授業。発想の拡散思考が保証された授業
- ◎基礎・基本が重視され、試行錯誤が容認された授業
- ◎教師の問いかけと援助のある授業

### (イ) 教材選択の条件

授業づくりを具体化する際、念頭に置くべきことは、学習内容である教材の適否である。教師は子どもたちが授業の中で目を輝かせ、自らの「想」に向けて真剣に取り組み、心を躍動させてくれることを常に望んでいる。このような状況を授業の中で作り上げていくためには、まず教材の持つ力(教材性)を吟味する必要がある。優れた魅力的な教材は、子どもを捉え、子どもが教材の中で自らの「想」を持ち、それを求め続けるに足る魅力を持っているからである。ここでは、望ましいと考えられる教材の条件をあげてみる。

- ①目標が次から次へと見えてくる。
- ②内面からの問いを生み出しやすい。
- ③子どもの心に共感を与えることができる。
- ④成就感が得られる。
- ⑤豊かなイメージをわきおこさせ、表現の選択ができる。
- ⑥これまでの造形体験を考え合わせ、素材に新鮮度があり、興味・関心をよびおこしやすい。
- ⑦適度に、技術的な困難さをとまなう。
- ⑧造形的な諸能力が育てられる場をもつ。
- ⑨総合的な扱いができる。
- ⑩集団機能を活用して個の表現が生きる。

- 
- (1) 興味あることがらがりこまれていくか。
  - (2) 想像力を豊かにふくらませる場があるかどうか。
  - (3) 造形的な諸能力を育てる場があるかどうか。
  - (4) 自分の想を具体化するための工夫する場があるかどうか。

### (ウ) たしかな自分を形成するカリキュラム

前述のような条件を基にして題材設定を考えたいが、それぞれの断片的な学習内容を、子どもたちの必然的な活動に合わせて、有機的、総合的に組み合わせていくことが大切であるとする。ひとつは単元として構成することも考えられるが、各学年の子どもたちの発達特性や体験させたい技能・材料・用具、学級や個人のレディネスを十分考慮して題材構成や配列をしておくことが大切であるとする。ここでは、基礎的・基本的事項(理解・技能・態度)の学習が比較的系統性をもつと考えられる「つくりたいものをつくる」「つくりたいものを立体で表す」項目を中心に題材の配列を考えた。

資料7

選定基準別題材一覧 《つくりたいものをつくる、つくりたいものを立体に表す》(重複する題材を含む)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
遊びにつながる題材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木と友だちになろう</li> <li>・ファッションショー</li> <li>・とびだせロケット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たのしいすろく</li> <li>・ヒラヒラ人間に変身しよう</li> <li>・とりの風車</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくのこまだよ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹とんぼをつくろう</li> <li>・玉ころがしゲーム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物パズルをつくろう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動くおもちゃ(クランクやふりこを使って)</li> </ul>
新鮮な驚き美しさを発見する題材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おしゃれなこいのぼり</li> <li>・みんなのマーク</li> <li>・たのしいぬいもの</li> <li>・粘土の山</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しいダンス(布をつかって)</li> <li>・かぶってみたいぼうし</li> <li>・こんな島があったらいいな</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルミホイルを使ってつくる</li> <li>・せつこうでつくろう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタンドグラス</li> <li>・おってかわるもよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大空にはばたこう</li> <li>・木切れをつるそう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土器づくりに挑戦しよう</li> <li>・つくろう!オリジナルモバイル</li> </ul>
夢をふくらませる題材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こんな生き物にのってみたい</li> <li>・おおきなおめん</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デコレーションケーキをつくろう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住んでみたい部屋</li> <li>・ぼくの島のぼくの地図</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酋長のおめん</li> <li>・こんな家に住んでみたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大空にはばたこう</li> <li>・ぼくらの水族館</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙でつくろう未来都市</li> <li>・わたしたちの宇宙</li> </ul>
自分の生活に生かせる題材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かべをかざろう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室をかざろう</li> <li>・ぼくのめいし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしの鉛筆立て</li> <li>・係のはたやマーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタンドグラス</li> <li>・紙のレリーフ</li> <li>・粘土のベル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・焼き物のコップをつくろう</li> <li>・教室のマーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オルゴール箱</li> <li>・プライベートタイムカプセル</li> </ul>
友だちと共に楽しめる題材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おしゃれなこいのぼり</li> <li>・木と友だちになろう</li> <li>・おはなし工作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こんな島があったらいいな</li> <li>・七夕のかざり</li> <li>・おはなし工作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物の旅</li> <li>・ぼくたちの町をつくろう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無人島に行きたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが乗れる車をつくろう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしたちの宇宙</li> <li>・紙でつくろう未来都市</li> </ul>

参考文献

- \* Eisner, Elliot W. 1972 Educating Artistic Vision. Macmillan Publishing Company, Inc., New York. アイスナー 仲瀬律久・前村晃・山田一美・箕作雄三・岡崎昭夫・宮崎藤吉・水島尚喜・加賀裕子・阿部英也共訳 1986 美術教育と子どもの知的発達 黎明書房
- \* 西野範夫 1989 改訂小学校学習指導要領の展開 図画工作科編 明治図書
- \* 文部省内教育課程研究会監修、西野範夫編著 1989 図画工作科の解説と展開（小学校新教育課程を読む） 教育開発研究所
- \* 岡崎昭夫・小林利明・駒田郁夫 1988 レッスン方式による図画工作科のカリキュラム（I）－『美術の発見』の事例－ 宇都宮大学教育学部教育実践研究指導センター紀要 第11号 宇都宮大学教育学部附属教育実践研究指導センター pp.139-148.
- \* 文部省 1980 小学校図画工作指導資料 指導計画の作成と学習指導 開隆堂
- \* アート エデュケーション vol.1 no.4 1989 （造形・美術教育の専門研究、[特集] 美術教育とカリキュラム）建帛社
- \* 大学美術教育法研究会編著 1990 新学習指導要領による図画工作科教育法理論と実践 日本文教出版

岡田匡史：山口大学教育学部

静屋 智：山口大学教育学部附属山口小学校